

ブルセラ症って どういう病気？

ブルセラ症は、ブルセラ属の細菌でもたらされる人獣共通感染症です。わが国では家畜の防疫が進んでおり、牛や山羊、豚などから感染するタイプのものは、近年発生していません。しかし、ペットに関してはしっかりとした防疫体制がないため、イヌから感染するブルセラ カニスは、繁殖のため多頭飼育されている施設などで、集団感染が近年数ヶ所で確認されており、社会問題化しています。

いったん感染すると、病原体は細胞内に取り込まれて終生持続感染をするので、管理が非常に大変な病気です。



人獣共通感染症 (Zoonosis) から あなたを守るために

① 動物にかまれたり引っかけられたりしない ように気をつけましょう。

- 温和な動物を選んだり、しつけをしたりして咬まれないようにしてください。
- 動物の爪を短くしておくといよいでしょう。

② 過度の接触はいけません

- キスをしたり、一緒に寝ないようにしましょう。

③ 生肉を与えない

- 生の肉には病原体が入っていることがあります。加熱して与えるとよいでしょう。

④ 排泄物は適切に処理しましょう

- 排泄物は速やかに処理しましょう。その後の手洗いも忘れずに。

⑤ 定期的な検診を受けましょう

- 獣医師による定期的な検診で動物の健康を維持しましょう。また、ワクチンなどで予防できる疾病は予防しましょう。



2008年 日本小動物獣医師会
人獣共通感染症委員会編
<http://www.jsava.com/>

掲載記事・イラストの無断転載を禁じます

ブルセラ症



ブルセラ症に感染すると・・・

ヒトの場合

症状

家畜から感染するタイプ

海外などで、管理がずさんなミルクやチーズなどの乳製品を摂取することで感染します。

ヒトに感染すると、長期間の発熱、発汗、疲労、体重減少、うつ状態などの症状や、リンパ節や、肝臓・脾臓の腫れがみられます。また、様々な関節炎、椎間板炎、骨髓炎、男性の精巣炎などもよくみられる症状のひとつです。まれに、心内膜炎を併発して、死に至ることもあります。

診断・治療

医療機関に相談して、診断・治療をおこなひましょう。

動物の場合

感染

感染動物との接触、交配によって主に感染します。

症状

イヌではほとんど症状はみられませんが、不妊、死産（妊娠45～55日頃）、精巣の腫れなどがみられることがあります。

イヌから感染するタイプ

国内では、保菌しているイヌの発情期の出血や、流産時のおりものなどから感染します。このときにイヌ自身が処理しようとして舐めた口の周囲にも多くの菌が付着しています。ブルセラ カニスの病原性は低いため、感染したヒトの状態により、症状の度合いは様々です。



診断・治療

動物病院に相談して、診断・治療をおこなひましょう。



ブルセラ症予防のためには・・・

家畜から感染するタイプ

海外旅行中は、殺菌されていないミルク・チーズ・アイスクリームなどを食べないようにしましょう。



イヌから感染するタイプ

ブルセラ症に感染しているイヌの流産時のおりものや、発情期の出血や分泌物には、非常に多くのブルセラ菌がみられるので、処分をする際には直接手を触れないようにしましょう。また、不妊や流産を繰り返す場合や、交配する予定のイヌは検査をおこない、必要に応じて避妊・去勢をさせましょう。